

切実な要求が実現、19年ぶりに新規採用 実習教員の採用を再開！

府教委は1日、府立学校実習教員の募集を公表し、来年度から実習教員の正規採用での配置を決定しました。一般枠に加えて、「障がい者枠」を別に設けて選考を行うとしています。採用予定人数、具体的な選考スケジュールについては7月17日頃に「受験案内」を公表予定です。公表後速やかに「府高教情報」で情報提供します。

府立学校実習教員の選考

出願期間 2019年7月26日(金)～8月26日(月)
(インターネット出願)
第1次選考 2019年9月29日(日)

府立高校の新規採用が停止して2019年で18年目となります。正規職員は昨年度で232人となり、「定数」に占める割合は70%にまで減少し、正規の実習教員が配置されていない府立高校が5校に及んでいます。長年培ってきた実験・実習教育のノウハウの継承が喫緊の課題となっています。新規採用の再開は、実験・実習教育を安定して行いたい、充実させたいという現場の切実な願い・要求、府高教の粘り強い交渉の成果です。

府高教は今回の新規採用再開にあたっては、教育実践を継承できるように実習教員の配置及び研修等に配慮すること、計画的に採用を継続させることなどを府教委に申し入れました。

実験・実習教育、学校図書館の充実へ！実習教員定数を回復せよ！

この間大阪府が行ってきた実習教員の「退職不補充」は、「財政再建」を口実に、実習教員の定数を「国並み」に引き下げたことをねらったものです。

これによって府立高校現場では、実習教員の削減に伴って教職員の多忙化が進行し、理科と家庭科など「兼務」が強いられる中、実験・実習教育に困難が生じています。また、「図書館には専任をおかない」という方針によって、多くの学校が「開かずの図書館」状態となっています。

学校現場の異常な長時間労働を解消し、生徒に豊かな実験・実習教育を保障し、ますます役割が大きくなっている学校図書館活動を保障するために、「国並み」定数削減方針を撤回し、実習教員の定数を回復することが求められています。とりわけ学校図書館については、他府県では配置が進んでいる学校司書の「専任・専門・正規」での配置が必要です。府高教は、これらの要求を掲げ、とりくみに引き続き全力をあげます。

／＼ **みんなの力で要求実現！** あなたも府高教へ！ ／＼

※出願期間の年が間違っていました。訂正して再送付します。